

# スターリイマンの 9つの風船だより

2013年  
新春感謝号

今年も9つの風船を  
たくさん届けるよ!



皆様、新年あけましておめでとございますー!

ごあいよいよ二〇一三年が始まりました。昨年は、活動の基盤となる一般社団法人の設立と、スターリイマンの作品に込めたメッセージを自己啓発本として、大人の方々にも感じていただくための新刊本を出版する事が出来ました。たくさんの方々との出会い、笑顔に溢れた素晴らしい二〇一二年となりましたのも、皆様の応援のおかげです。本当に心から感謝いたします。

かけがえない二〇一三年。これからどんな出会い、笑顔が待っているのでしょうか？今、未来への希望でわくわくしています。

どうか皆様の喜びや幸せ輝く素敵な一年になりますように☆  
温かいきずなでつながったの皆様と共に、今年も心と力を合わせ、夢を叶える9つの風船を届けてまいりたいと願います。どうぞ本年も宜しく  
お願い申し上げます！

はせがわいさお・芳見・祐希



12/23：スターリイマン生誕25周年と一般社団法人設立&新刊の出版を記念した「スターリイマンたちが集う☆クリスマスパーティー」を開催。スターリイマンのように心輝く、約50名の方から応援をいただき、また一歩踏み出す力をいただきました。

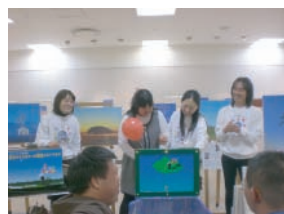


「スターリイマンカレンダー2013」と「いつも君のそばにいるよ」絶賛発売中♪ご購入いただきました皆様、ありがとうございます！

# 2012年・秋冬★活動レポート



長野県伊那市のお菓子屋さん「菓匠simizu」さんは、清水シエフのお父様が生まれた年に創業され、今年で六十五周年を迎えた事を機に、社長を務めていたお父様から清水シエフに受け継がれました。その記念として、スターリイマンの作品のご依頼をいただき、願いを込め創作させていただきました。私たちも大好きな「菓匠simizu」さんから、たくさんの笑顔と夢が輝き続けますように☆清水シエフが始めた「夢ヶ丘プロジェクト」は、日本全国に広がり、被災地でも継続的に活動を行っています。



十一月十四日から二十八日まで、「まるひろ飯能店」さんで行われたチャリティ展示会のご支援により、十一月二十日から二十四日の間、福島市と陸前高田市と大船渡市の保育園さんや福祉施設さんに、紙芝居をお贈りする事が出来ました。二〇一二年もたくさんの方の応援、ご支援をありがとうございます！



スターリイマン紙芝居ライブをクリスマスイベントとして、日頃お世話になっているアイエスエフネットグループさんの「匠カフェ」福島・安城・青山の三ヶ所で社員さん向けに開催させていただきました。茨城の北海道にある幼稚園さんのイベントとして、子ども達や親御さんと楽しく過ごしました☆



「いつも君のそばにいるよ」の出版記念イベントを福島市・郡山市のみどり書房さん三店舗と、横浜みなとみらいと、世田谷区の馬場公苑のツタヤさんにご協力いただき、開催いたしました♪  
今回の作品は、大人向けの内容になっていますが、ストリートオルガンの演奏と共に、物語を朗読し始めると、小さい子も真剣に聴き入ってくれました。次回の出版記念イベントは、一月二十九日(火)に青山にて開催予定です。今後も、この本の展開を、色々企画中です！皆様、乞うご期待ください！

【今後の活動予定】一月八日(火)十八時三十分〜紙芝居ライブ&被災地の作品の朗読  
一月二十九日(火)十五時〜新刊出版記念講演会 詳細はHPからお問合わせください★

# 「被災地の未来を輝かす心の原風景」第七作目 『未来へつなぐ幸せの架け橋』〜宮城県石巻市〜



「被災地の未来を輝かす心の原風景」第七作目として描いたのは、宮城県石巻市の万石浦（まんどくつら）橋から万石浦を臨んだ風景です。

古くは《奥の海》と称された万石浦は、石巻市東部の牡鹿半島の西側基部にある湾入で、南側が海につながっています。仙台藩の第二代藩主・伊達忠宗が「ここを干拓すれば一万石の米が取れるだろう」と言ったことに由来し、万石浦と呼ばれるようになりました。

作品の中でスターリイマンが立っている「万石浦橋」は、万石浦湾の入り口に掛っており、大津波が襲った際は、この橋が瓦礫をせき止め、津波の波が左右に分かれたため橋の内側は、津波の被害は比較的少なくなりました。しかし、反対側の女川方面から津波が山を越えて到達し、地盤沈下による浸水も解決しないままとなっています。

この風景を描くことになったきっかけは、昨年、十月二十日から行った東北の活動の中で、二十四日の午後、南三陸から石巻の万石浦小学校の児童クラブさんに向かって、車を走らせている最中の事でした。石巻市内に入ると少しすると、左手の山から車道の方へ大きな虹のアーチがかかりました。しかも、虹は重なり合うように2本並んでいたのです。三人で歓声を上げながら走り続けていると、虹は段々と子ども達が待っている児童館の方向へ降りていきました。その様子は、子ども達の幸せな未来を暗示しているかのようでした。児童クラブさんで紙芝居の後に、子ども達に虹のことを話すと、「僕たちも見たよ!」「すごくきれいだったね!」と目をキラキラと輝かせながら、元気いっぱい話かけてくれました。その時の子ども達の嬉しそうな姿が、心に深く残り、子ども達との思い出と、子ども達の大切な故郷の風景を描こうと決めたのです。



震災から数ヶ月後の万石浦橋。津波の爪痕が生々しく残る。



万石浦は、牡蠣の垂下式養殖方法を生み出した宮城新昌氏（料理研究家・岸朝子氏のお父様）により、牡蠣養殖最適の地として開拓され、世界一の種牡蠣産地として有名に。一九六〇年に、フランスでヒラガキの病気が蔓延し、絶滅の危機に瀕した際には、万石浦の種牡蠣がフランスに送られた歴史もあり、世界中の牡蠣養殖を支え続けてきたこの場所は、残念ながら震災による津波で、養殖棚の多くが津波で流されたり、地盤沈下で力キ処理場が使用不能となるなど甚大な被害を受けました。地元漁師さんの懸命な努力と国内外からの支援により、二〇十二年の夏には、養殖施設の九割方が復旧。ただ、種力キが少ない事と、牡蠣剥きに利用できる加工場が限られている為、震災前は二万個出荷していた牡蠣は、二〇十一年には五千個、二〇十二年には八千個となりました。以前の活気を取り戻すため、多くの方々に美味しい牡蠣を味わっていただくため、かき小屋を開き、少しずつですが、復興へ向かっている所です。

別れ際、「また来てね〜!」とずっとずっと姿が見えなくなるまで、手を振り続けてくれた万石浦小学校の児童クラブさんの子ども達、もつと震災から二年。子ども達の幸せな未来が、虹の彼方に続いていますように。心から願い、これからも夢を叶える風船を届ける旅を続けていきます。

「被災地の未来を輝かす心の原風景」シリーズも、残す所あと二作品となりました。

これまでの創作や創作に至るまでの活動を支え続けてくださった皆様方に、心から深く感謝を申し上げます。大変有り難い事に、被災地の方々からも、このシリーズ作品を一人でも多くの人に観せたい。震災の事を伝え続けてほしい。との強いご要望を、各地でいただけるようになり、今後の創作活動や、三月十一日までに、九作品完成させた後の展開に励んでまいりたいと思っています。五月のGWには、紙芝居プロジェクトの発祥の地、沖繩で。また八月八日の「世界夢ケーキの日」に合わせて、長野県伊那市の伊那食品工業さんの「かんでんぱはガーデン」にて、八月上旬に企画展を開催する計画が動いています。東北から日本中のきずなをつなぐため、皆様方のお力添えを、引き続きどうぞ宜しくお願い致します! 次の第八作目の完成は、一月下旬から二月上旬頃の完成を予定しております。